

# 労働大学・第20回総会・集約

2023年11月19日 学長 須藤行彦

## 労働大学再建20周年記念集会の成果を具体的な力に

23年6月11日（日）に開催された「労働大学再建20周年記念集会」で再確認された「労大運動とは大衆学習運動である」という本質的意義を理解することが大切です。

今回の20周年集会で、労働大学のこれまでの歴史を総括し提案された内容は、まさに階級及び階級闘争としての労働大学・大衆学習運動の重要性・必要性です。記念講演のDVDも参考にして活用して下さい。

全国各地で20周年運動を！との呼び掛けで、10月29日（日）に労大再建20周年記念四国ブロック集会在、四国四県から48名の仲間が結集し、徳島・三好市で開催されました。来賓として、新社会党四国ブロック代表、社会主義協会代表から祝辞をいただきました。

学長の記念講演と三池闘争で生まれた歌、9曲を四国ブロック合唱班が披露しました。三池闘争の再認識もすることが出来ました。最後に全員でインターナショナルを合唱し、成功裏に終わることが出来ました。

## 労働大学の果たす役割と課題

労働大学の任務は、科学的社会主義、マルクス・レーニン主義思想をまなび、広めることです。全国の職場と地域に大衆学習運動、総学習運動を組織することです。

具体的には、全国各地で取り組まれている大衆学習運動としての「労働大学まなぶ友の会運動」の強化・拡大です。資本に対する怒りを組織する『月刊まなぶ』拡大運動です。これらの運動を通して培われた「相互討論」による人間としての成長、労働者階級としての自覚と誇りです。社会主義運動、労働運動は、私たち自身と仲間との「人間性回復」あるいは「人間性を高める」闘いであることということです。

困難な中でも、学習会は、続けることが何よりも大切です。学習会は、ただ学習するだけでなく、大事なことは学習活動、相互討論を通して参加している仲間が同志意識を持つようになり、運動の中で協力して活動するようになります。各人の個性を生かす協力体制の中から、そのように変化・成長して組織的な力に発展します。知識から思想へ、人間としての成長です。

## 『月刊まなぶ』21年目の新たな一歩を

労働大学の再建で、「はたらくもののほん」として、2004年1月号からスタートした『月刊まなぶ』も24年1月号で21年目を迎えることになりました。

労働現場からの怒りの声や、教育現場や医療現場、地域のユニオン運動や食と農業運動からの声、さらに反戦平和を願う熱い思いなど、内容的にも質的に高められ、多くの仲間

の心をとらえています。労働大学ホームページの充実と改善、活用も広める努力をしています。ぜひ見てください！

これまで編集実務を担ってこられた栗原規昭さんが健康上、23年4月号から任務を引くことになりましたが、長年大変お世話になりました。ありがとうございます。

これからは、芳賀芳美さんを中心に新しい編集スタッフで、より多くの仲間の関りで、執筆者も可能な限り全国から参加できるようにアンテナを高くして、労働者階級・働く者の血肉になるように努力していきます。なお、表紙絵の古屋昌子さんも、300号まで頑張るとの決意をいただいていますので、皆さんからの激励もよろしくお願いします。

高知県協から『月刊まなぶ』に、新たなコーナー新設の提案もありましたが、全国偏執会議で検討させていただきます。

### 仲間に学ぶ、今こそ、大衆の中へ

「みんなの学習講座」の『イギリスにおける労働者階級の状態』も大変好評です。24年4月号からは、四国ブロック担当で『共産主義における「左翼」小児病』が始まります。この書を学ぶにあたって、四国ブロックでは「人生の書である」との認識を共有して第1回学習会がスタートしました。

今こそ、あらゆる困難を乗り越えて大衆の中へ入っていくことが求められています。具体的には、若い仲間への声かけを重視しながら、内外の五人組運動の強化です。

私たち課題は、しっかりと根を伸ばし、根を張り、粘り強く寄り添い仲間を組織することです。伝えることの難しさを感じながら、その為にも自らが労働者としての誇りと労働者思想を持った、目的意識的な日常活動を送ることが大切です。目標と方針をもって、大衆に学ぶという姿勢が求められています。健康を第一にしながら、継続した運動を共に頑張りましょう！

